公開講演

風土・身体・記憶をめぐる創作の可能性

― 舞踏コレクティブ「遊舞舎」の実践から ―



日時 2026年12月7日(月)10:40～12:10
会場 お茶の水女子大学 本館 306 教室
聴講無料 要事前申込 12月4日(金)正午締切

講演紹介

本講演では、舞踏コレクティブ「遊舞舎」が取り組む、民間伝承や民俗芸能へのリサーチをベースとした新たなパフォーマンスの創作について紹介する。岩手県遠野市の外山神楽での実践をはじめ、地域の芸能や風土、そこに息づく身体の記憶との出会いを通して、伝統的な表現を現代の身体表現へと展開する試みを取り上げる。風土・身体・記憶の交差から生まれる、新たな芸術の可能性を探る。





撮影:多摩美術大学TUB

講演者　遊舞舎 優子（徳安優子）

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 舞踊・表現行動学コース修了。2019年より舞踏家・中嶋夏に、2020年より舞踏家・相良ゆみ、久世龍五郎に師事。2020年より舞踏を軸としたパフォーマンスユニット「遊舞舎」を設立。自作公演の創作・上演に加え、美術家、音楽家、詩人、研究者などとの共同制作に携わる。Dance Vision 2023 under 30に選出。岩手県遠野市の早池峰岳流外山神楽保存会にて神楽を学ぶ。大学院修士課程では、従来女性の参画が制限されてきた山伏神楽への女性参画について、舞踊学的視座から考察した研究論文を執筆。2024年より「芸術と表現の学舎」を主宰。

共演者　遊舞舎 慶子（徳安慶子）

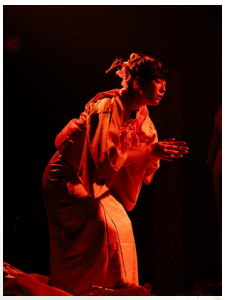
舞踏家。東京藝術大学大学院 美術研究科 グローバルアートプラクティス専攻修了。2019年より舞踏家・中嶋夏に、2020年より舞踏家・相良ゆみ、久世龍五郎に師事。同年、舞踏を軸としたパフォーマンスユニット「遊舞舎」を設立。自作公演の創作・上演に加え、美術家、音楽家、詩人、研究者などとの共同制作に携わる。近年は民俗学などの知見を参照し、都市における「まれびと」的存在としての舞踏表現の在り方を探求。クマ財団第7期生。千葉県アーティストフォローアップ事業第1期生。

共演者　遊舞舎 珠子（三宅珠子）

東京藝術大学大学院 美術研究科 グローバルアートプラクティス専攻在学。東北育ち。2019年より、日本とルーマニアにおける魔女文化の調査・研究を行う。2023年にはアーティスト・イン・レジデンスに参加し、ルーマニアに滞在して作品制作、展示を実施。同滞在について、日本ルーマニア協会、アーティストレジデンスサイトAIR J、ルーマニア新聞社に滞在記を寄稿。遊舞舎の過去作品に舞台衣装・ドラマトゥルクとして携わり、2024年より正式に団員として活動を開始。









右画像2点:台日舞踏交流会/郭俊彦/Daniel Kuo

お申込み

QRコードまたはURLよりGoogleフォームにて
12月4日(金)正午までにお申込みください。

https://forms.gle/izifwLgSjm2vDn2s8

本講演は、「舞踊における色・音・香」の授業の一環として行います。通常の教室ですが、可能な範囲で実演も行っていただきます。

お問合せ

お茶の水女子大学文教育学部芸術・表現行動学科
舞踊教育学コース　准教授 中村美奈子
nakamura.minako@ocha.ac.jp